尾道水道

銀の道探訪マップ⑨

尾道市木ノ庄町～尾道市久保町編

御調からの峠を越えると、街道はしばらく畑の集落を緩やかに下る。そして、明治の道と、現在の国道一八四号を横切るようにして道は槇ヶ峠を越え、木ノ庄町市原へと続く。

そして、さらに南下しながら美ノ郷町白江、三成を通過し、最後の峠となる向山に向かう。峠を越えると、いよいよ尾道市長江の町並みが見えてきた。最終目的地、尾道の本陣で運上銀を引き渡せば、三泊四日の過酷な任務は、無事終了となる。

この区間の主な見どころ

- 東畑の古道
- 畑の古道
- 西畑の常夜灯
- 市原の辻堂と常夜灯
- 身代わり観音
- 三成の六地蔵
- 三成の常夜灯
- 小川道海の碑
- 六本松地蔵尊
- 馬小屋跡
- 長江の道標
- 畳問屋街
- 丹花小路
- 尾道の本陣跡
- 出雲街道起点の碑
- 住吉神社
- 浄土寺
- 天寧寺
- 光明寺
- 旧出雲屋敷

中世の町、尾道

尾道は世羅町の今高野山をつなぐ物資補給路として古くから開け、市内には中世の重要な遺跡がたくさん残っている。

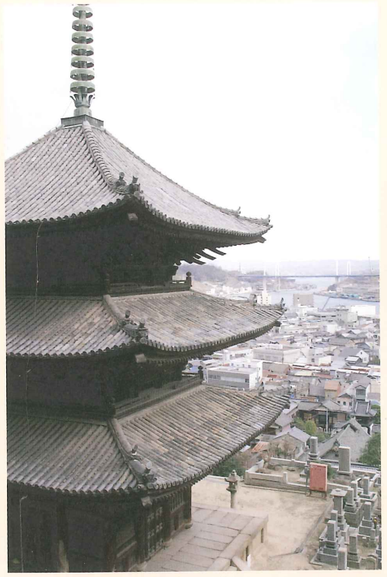
中でも「浄土寺」は尾道最古の寺として重要で、境内には国宝の「多宝塔」や「本堂」などがある。鎌倉時代に、奈良西大寺の定証上人によって再興された。

間もなく火災により全焼したが、尾道の豪商である道蓮・道性夫妻により再建された。また、足利尊氏の祈願所となり、尊氏の肖像画や直筆の文書が数多く残されている。

「天寧寺の塔婆」（国重文）は、その昔五重塔であったが、落雷で焼損し、三重塔となった。創建は一三六七年で普明国師によって開山されたと言われている。一説によると、同年足利尊氏による創建とも言われている。ご本尊は釈迦牟仏である。

尾道は近世においても、石見銀山からの運上銀を積み出す港町としての役割をもつようになり、ますます重要になった。当時の街道に沿って歩いてみると、近世の遺構もたくさん残っている。

浄土寺


天寧寺の塔婆

杯状穴（はいじょうけつ）

その昔、神社や仏閣へ参拝する時に、石段や灯篭などの石材を、硬い石棒でたたきながら、お経や願い事を唱え続けるという風習があった。その痕跡を「杯状穴」といい、この地方で特に多く見られる。この風習は、古代信仰から始まっているといわれ、遺跡の中からも発見されることがあるが、通常確認できるのは江戸時代以降のものが多い。

尾道市美ノ郷町三成の金毘羅常夜灯の裏側に、この石柱が残されている。

三成金比羅常夜灯

金比羅常夜灯裏の杯状穴

小川道海と地蔵尊

小川壱岐守道海は、尾道の豪商「笠岡屋」の先祖で、一五五五～一五六九年頃、壱岐の守として毛利元就に仕えた武士であった。尾道に来てからは郡代として活躍している。

道海は、信心深く、一五七三年から一五九二年の間に、全国六六ヶ所の霊場を二度にわたって行脚し、その記念碑として、「回国塔」を「正授院（現尾道市長江一丁目）」に建てた。

また、街道を行く人々の安全を祈願して、旧石州街道沿いに地蔵尊も建てている。今でも地域の人々の信仰が厚く、毎年八月二三日の地蔵盆には、多くの人々がお供えを持って地蔵堂に集まるという。

小川道海の墓

小川道海建立の地蔵尊

旧出雲屋敷と北前船

一七八九（寛政元）年、「石見銀山の銀積み出しのため尾道より安芸守様の御船に積んで摂州室の津へ積廻す」とある。現在の尾道市東土堂町に、かつての「出雲屋敷」が残っており、出雲藩積み出しの米の大部分は、尾道で売りさばいていたとのこと。当然石見銀山産出の銀受け渡しをした役人の宿泊所だったとも思われる。

ここより西に、浄土宗西山禅林寺派の「光明寺」がある。九世紀に「慈覚大師」によって創建された天台宗の寺院であったが、一三三六（建武三）年、「足利尊氏」の従軍僧によって浄土宗に改宗した。この寺院には、廻漕業問屋だった檀家も多く、船の形をしたさまざまな墓石がならび、かつての尾道が海運業によって栄えていたことを物語っている。出雲出身で、尾道の関取「初汐」に弟子入りして横綱となった「陣幕九五郎」の分骨の墓もある。

旧出雲屋敷

船形の墓（光明寺）

主な連絡先

尾道市役所市長公室	0848-25-7377
尾道観光協会	0848-37-9736
おのみち歴史博物館	0848-37-6555
NPO法人尾道文化財研究所	0848-37-1830

銀の道関連ホームページ

おのなび
http://www.ononavi.jp/

制作　国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所
問い合わせ先：「銀の道交流会事務局」TEL 0855-87-0775（Fax兼用）

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。（承認番号　平18　中複　第150号）」

①東畑の古道
現在の国道は、大きく迂回して峠に向かっているが、谷を挟んだ東側斜面に、峠へ向かう江戸時代の古道が残っているのが見える。

②畑（はた）の古道
峠の頂上部に畑の集落があり、その山手に昔のままの古道がそのまま残っている。

③西畑の常夜灯
旧街道脇に「光」の文字が刻まれた常夜灯がある。その上の民家の庭先には、もっと古い時代の常夜灯が今も残っている。

④市原の辻堂
市原の道沿いに辻堂が建っている。隣には常夜灯が建っており、かつては街道筋であったことを物語っている。

⑤市原の常夜灯
1860年に建立された常夜灯。隣に建つ辻堂と共にかつて街道を行く旅人を見守っていたのであろう。

⑥身代わり地蔵
尾道市内各所にこうした辻堂が残っており、四つ堂とも呼ばれている。ここの堂内には、身代わり地蔵が安置されている。

⑦三成の六地蔵
周辺の様々な古石塔、五輪塔を集め祀っている。中世には、この近くに生活の場があり、墓地もあったことが想像される。

⑧三成の常夜灯
道沿いに建っている常夜灯。その足元の石には、願事を唱えながら石棒でたたいた痕が残っており、「杯状穴」と呼ばれている。

⑨小川道海の碑
民家の庭先に建てられたお堂は、尾道の豪商「小川道海」が、旅人の安全を願って建てた地蔵堂の一つである。

⑩六本松の地蔵尊
小高い丘の上に地蔵堂が残されている。このお堂の裏には六本松の名の由来となった松の枯れた株が残っている。

⑪馬小屋跡
かつて、街道沿いには乗換えようの馬が用意してあり、その馬小屋と思われる跡がここにあった。現在は駐車場となっている。

⑫長江の道標
街道は県道367号から東よりの通りに入る。ここは畳問屋街となっており、一隅に出雲街道を示す道標が残っている。

⑬畳問屋
県道367号より東に一本入った通りに、畳問屋街の名残をとどめている建物がある。今はここにだけが往時の面影を残している。

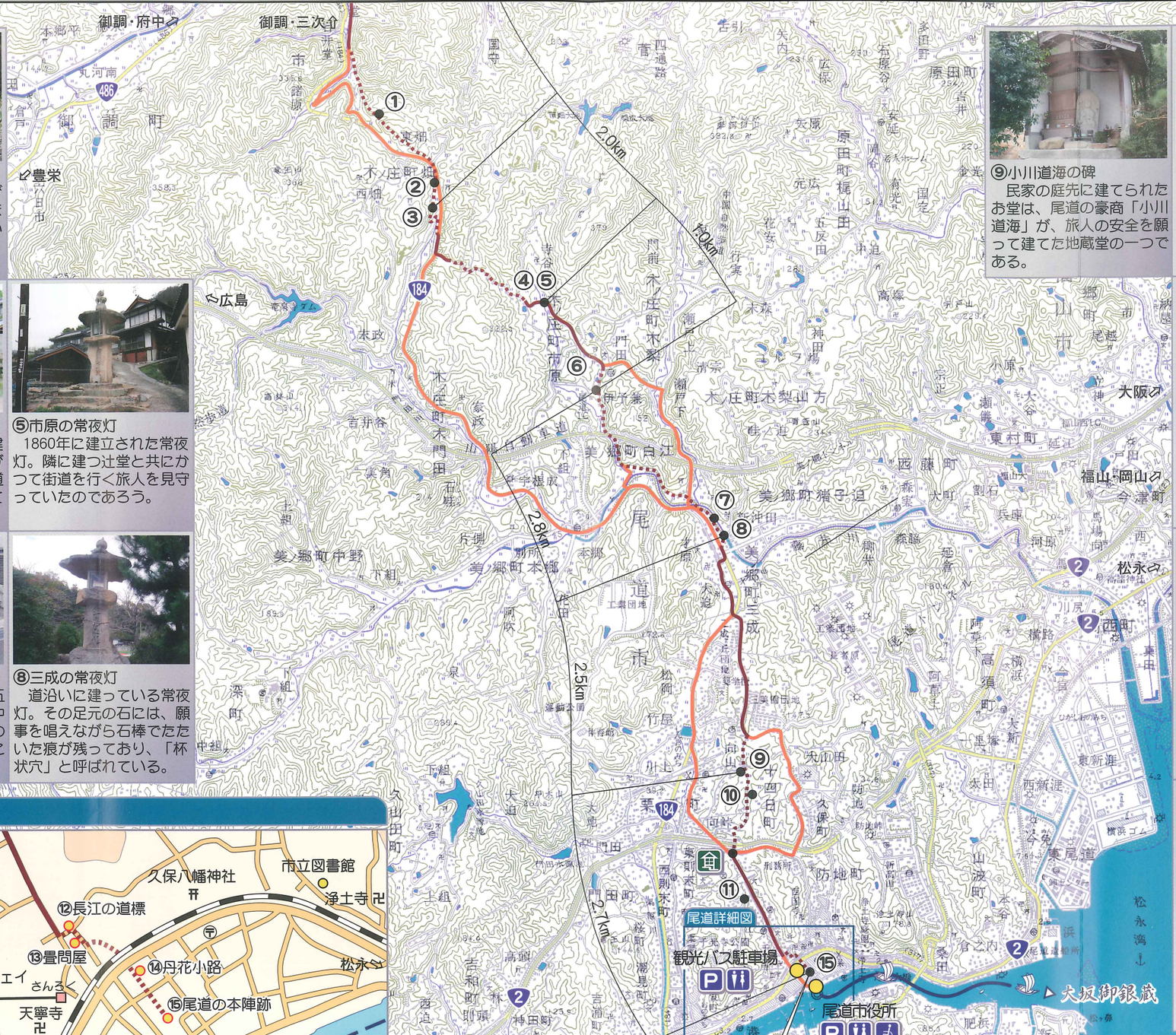
⑭丹花小路（たんがしょうじ）
銀の道はここでJR山陽本線で分断され、線路の南側では丹花小路と呼ばれる狭い道となる。小路沿いには常夜灯も残っている。

⑮尾道の本陣跡
輸送隊を率いた代官所役人が宿泊した本陣跡には、今でも立派な礎石が残っている。銀はここから船で積み出されたと思われる。

⑯出雲大社道起点の碑
街道に残された出雲大社道の起点を示す碑。尾道から出雲大社を目指す旅人の起点となる場所である。

⑰住吉神社
当時とは社の向きが違うが、今も昔も海の安全を見守っている。銀を積んだ船もここで安全を祈願したことだろう。

尾道詳細図



複製不許可

凡例

銀の道（車）※1	車輌迂回路
銀の道（歩）※2	おもな施設
道標・石碑	駐車場・駐車可能場所
常夜灯	トイレ
地蔵・石仏	トイレ（車イス可）
辻堂・祠	レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道（道路幅も狭く通行困難な部分あり）。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む（家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり）。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。
交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。

2006.4